愛知県高齢者生活協同組合　２０１８年

たより

１１ 月

第２１２号

＜発行＞愛知県高齢者生活協同組合・本部事務局

〒４６０－００２１　名古屋市中区平和２－２－３
電　話　０５２－３３１－４８５３　　FAX　０５２－３３１－２７３５
ホームページ　http://aichikoreikyo.web.fc2.com/

●もくじ●

ぬくもり案山子カフェ開催!!・・1
事業所を拠点に地域とつながろう
Part・・・・・2～3
Part・・・・・4～5
理事会だより・事業所運営会議・6
あるおじいの沖縄戦①ほか・・・7
高齢者生協拡大推進月間・・・・8

「福祉」「仕事おこし」「生きがい」の３本柱は「地域」と共に！

～高齢者生協拡大推進月間～

全国の高齢者生協では、九月一日～一二月三一日までの四カ月間で一斉に組合員拡大強化月間が呼びかけられています。これに呼応して愛知高齢者生協としては一〇月一日～一二月三一日に、高齢者生協拡大推進月間として取り組み始めており、各地域福祉事業所では様々な行事でアピールしています！

春日井発！

案山子カフェ開催！

高齢者生協春日井ぬくもりでは、一〇月二一日に、ぬくもり秋祭りにあわせて「ぬくもり案山子（かかし）カフェ」を開催しました。同日は春日井祭りも催されていたにもかかわらず、約六〇名の参加者でにぎわいました。

元気いっぱいよさこい踊りで気合も十分

「案山子カフェ」の由来は、広い田んぼの中に一本足で立つ案山子が、地域全体を見渡せるようにとの思いを込めたもの。派手な衣装に身を包んだ職員手作りの案山子が、来場者をみまもる中、ボランティアによる元気なよさこい踊りや、心温まる沖縄民謡の演奏など、軽食を囲んでみんなで楽しみました。

目標は地域の困りごと相談窓口

案山子カフェは今後月に一度開催する予定ですが、まずは地域の皆さんに知っていただくため、初回はぬくもり秋祭りと同時に行いました。

元々は、今年の春先に認知症勉強会を行った時、日ごろの生活に悩みを抱えている地域の方がとても多いことに気づいたスタッフが、なにか地域の役に立てることはないかと考えた結果、この企画が生まれました。これから地域の困りごと相談の窓口として機能出来る様に目指します。

（ぬくもりケアマネ余語恵美子）

地域を見守る
ぬくもりの
案山子

地域とつながろう！ Part1

爆発！ ほほえみ祭り

全事業所に先立って、九月二二日（土）、豊田市保見が丘のケアセンターほみ＆児童デイほほえみによる「ほほえみ祭り」が行われました。

今年で開設八年目を迎え、職員の仲間も増えてきたケアセンターほみ。年々、この催しを利用者も楽しみにしてくれるようになりました。

今シーズンは大型台風が吹き荒れ、この日も空には灰色の雲が垂れ込めていたにもかかわらず、訪れてくれたゲストは例年に並ぶ六〇名。

紙芝居とマジックを披露してくれたのは三年連続出演の地元ボランティア団体「わくわくセブン」の山川さん。そのあたたかい語りかけと手さばきに、大人も子どもも引き込まれてしまいます。あまこだ事業所から駆けつけてくれた岩田さんと加藤さんの愉快なダンスやミニマジックで会場は一気に明るい雰囲気に包まれました。

かわいいフレーム枠に収まって家族で笑顔の写真を撮り合い、ホテルのビュッフェ形式でブラジルやペルーの料理を取り分けたり、毎年好評の焼きたて焼き鳥もあっておなかいっぱいに。

参加した皆さんは、日ごろのデイルームでの顔とはまた違った笑顔になって、職員全員「これからの一年もがんばろう！」と思いを新たにした一日でした。

（ほみ　鈴木和美）

おいしいペルーやブラジルの料理も並びました。

「異文化介護を考える集い」に参加して

9月1日、名古屋駅ウインクあいちにある愛知県立大学サテライトキャンパスにおいて、「異文化介護を考える集い」が開催されました。

このセミナーは、最近、少しづつ認識され始めてきた外国人高齢者問題を取り上げ、この問題が認識されるきっかけとなった「外国人高齢者と介護の橋渡しプロジャクト」の取り組みを踏まえ、今後の外国人高齢者介護の問題点や取り組み、対応策などについて話し合い、日本人も外国人も安心した老後を暮らせる地域社会のあり方について、参加者とともに考えていくという目的でおこなわれました。

施設からの報告として、「高齢者生協ケアセンターほみ」の報告をさせていただき、有職者として、金城学院大学の朝倉美江氏より、日本における外国人問題、多文化共生社会に向けた提言や助言をいただき、行政からも愛知県多文化共生推進室の方より、愛知県の今後の施策などが紹介されました。

愛知県には、東京に次いで２番目に多い２４万人の外国人が住んでおり、年々増加してきています。今後も日本で生活する「永住者」の在留資格をもつ外国人が増え続けるといわれています。こうした変化し続ける新しい動きを伝えるとともに、共生社会の時代をどう生きていくかを考える機会の場となりました。

ケアセンターほみのある豊田市保見ケ丘はブラジル人を始めとする外国人が４０％を占める地域です。ケアする側、される側双方に外国人が携わっています。まさに今回の問題の先進事例として取り上げられ、注目されつつあります。

（報告者：藤井克子）

事業所を拠点に

岡崎！ かけはし祭り

一〇月六日（土）、恒例のかけはし祭りを開催しました。

この日はあいにくの天気で、急きょメイン会場を移動したり、バタバタすることもありましたが、お昼を食べる頃から雨も上がり、午後のかけはし笑劇場は予定通り行うことができました。

今年は利用者とスタッフ全員参加を目標に取り組んできました。デイサービスからは毎日ハンドベルや歌の練習をする声が聞こえていました。

訪問のスタッフも「自分たちもやろう！」といってリコーダーの練習を始めたりと、準備段階からだんだんかけはし全体がお祭りムードに包まれていきました。

当日は、利用者、ご家族、ご近所さん、近くの事業所の方など、総勢六〇人以上の方方が参加して下さいました。

かけはし笑劇場にも、今年はスタッフだけでなく利用者の方まで参加していただきました。かわいい三人のお地蔵さんが、劇に花を添えてくれました。

「自分たちも参加できて楽しかった」

「毎年楽しみにしているかけはし祭りに来ることが出来て楽しかった。新しい目標は、来年も参加すること。」

と言ってくださるヘルパー利用の方の声を聞くことが出来ました。

私たちスタッフもまた、来年もさらに楽しんでもらえるものにしていくよう、がんばります。

（かけはし
ケアマネージャー
杉浦明子）

利用者もかけはし笑劇場で名演技！

今月のうた

山寺の和尚さん

作詞・・久保田宵二
作曲・・服部　良一

山寺の和尚さんが
毬（まり）はけりたし毬はなし
猫をかん袋に押し込んで
ポンとけりゃ　ニャンとなく
ニャンがニャンとなく　ヨイヨイ

山寺のたぬきさん
太鼓打ちたし太鼓なし
そこでお腹をチョイと出して
ポンと打ちゃ　ポンと鳴る
ポンがポンと鳴る　ヨイヨイ

地域とつながろう！ Part2

一発！ 地域の「困った」人の力に！ デイサービスまったり

九月一一日、一宮市地域福祉事業所「デイサービスまったり」で開かれた、今年度第一回目の地域運営推進会議に参加しました。一宮市地域包括支援センターの萩原町担当者、萩萩原町東西地区の民生委員、町内会長をはじめ、利用者とそのご家族、職員合わせて三八名の参加となりました。

この日はデイサービスまったりの事業報告に続き、後半は、まったりで人気のレクリエーション「ピアノ演奏でカラオケ」の様子を利用者と共に観覧し手作りおやつの試食なども体験しました。

「ピアノ演奏でカラオケ」は、地元で活動されている日比桂先生の生演奏による、リクエスト局や季節の童謡、昭和の歌謡曲を簡単な体操やゲームと組み合わせてみんなで歌うという、とても楽しいレクリエーションです。

歌が好きな方は歌い、そうでない方もピアノの音に耳を傾けながら歌詞ブックを眺め、利用者のみならず会議に参加した私たちも楽しいひと時を過ごしました。

「困った人を見すてない」のが高齢者生協の強みであり基本の姿勢ですが、地域包括支援センターの方も「ご近所にお困りの方がいたら連絡してください。」と繰り返しお話しされており、ここに集まった方それぞれが地域の困った人の力になりたいと願い、地域福祉のことをいつも気に掛けている方々だということを改めて実感しました。

「一人ぼっちの高齢者をなくそう」は高齢者生協のスローガンのひとつです。困ったときに相談しやすい、地域や利用者に開かれた生協でなければならないと痛感するとともに、高齢者生協まったりも地域や家族を思う人々の温かい支えにより事業を営んでいるのだと胸に刻んで日比の業務に活かそうと改めて感じた一日でした。

（本部事務局　加藤美紀）

ピアノで演奏する
日比 桂先生

まったりさんは地域イベントでも人気者です！

一〇月二八日（日）、「ニコニコふれあいバス二周年記念感謝デー」のイベントとして開かれた町内対抗カラオケ大会に、西御堂地区の代表として町内会長や子供会の皆さんと、まったり名物〝オニのパンツ〟の踊りと歌で参加しました。

オニのパンツの扮装で踊りました

ニコニコふれあいバスは、住民の力によって運営されている、萩原・大和から一宮駅までの地域循環バスです。年に一回、運動推進のため感謝デーが開かれ「餅つき、米・野菜・卵の即売、不用品バザー」や「太鼓・踊り」などに多くの皆さんの参加があります。

まったりスタッフによる「オニのパンツ」の熱演は、来場の皆さんをひと時の笑いに包み込み、好評を持って迎えられました。

事業所を拠点に

共生の壁

問題解決 人任せ

団地に未来の縮図

毎日新聞の記事（上）と藤田さん

もう、共生は日常の風景

八月の、毎日新聞地方版に、高齢者生協ケアセンターほみ及び児童デイほほえみで働いている、藤田パウロさんの記事が掲載されました。

藤田さんは、平成二九年よりケアセンターほみにてボランティアから活動を始め、今ではこの職場になくてはならない存在として活躍しています。

元々は保見団地一帯の地域活動に熱心にかかわってきた方であり、特に町の美化に力を入れ、在住外国人と地域住民との共生のかけ橋のような役割をはたしてきました。おかげで地域では外国人からも日本人からも慕われている存在です。

在住外国人が多く住むこうした地域では、生活習慣の違いから、地元住民との間で摩擦が起こりがちなのは周知の事実です。地域のルールを相互に理解し合うまでに、様々な苦労が伴うことは保見団地も例外ではありませんでしたが、現在は藤田さんのような地域のボランティアの方々の努力もあって落ち着いてきた地区です。

地域のかけ橋的活動の中から見えてくるもの

確かにかつては暗いムードをもたらす事件もあった保見団地ですが、そこに住む人たち次第で変わることができると実感できます。

「汚れていると『また日系人がやった』といわれる。一部の人がやっているだけなのにね。」とも語っていた藤田さんですが、その一方で、記事ではこうした高齢のボランティアの人任せになりがちな現状に次のような疑問も投げかけています。

「一人汗を流す藤田さんを横目に、当たり前のように通り過ぎる住民たちもいる。そのよそよそしさの原因はなんなのか。」

平成二〇年のリーマンショックの時、国は在住外国人に対し、一定の条件を付けて大規模な帰国支援事業を推進しました。

「外国人は企業の都合と国の施策で突然リセットされてしまう。」

ひとつの推測にすぎませんが、そんな漠然とした思いからくる疎外感もあるのではないかと、ふと考えます。今国会で採決見込みの出入国管理法改正案も、その前提に様々な深刻な人権問題をはらんでおり、私達は、より関心をもって見ていかねばならないのです。

地域コミュニティーの中で大切なかけ橋の役割を担っている藤田さんは、そんなことは一線を画して、今日も飄々と活動しています。（本部事務局・野中）

地域のミニコミ誌「アルテナチーヴァ」にも藤田さんの記事が紹介されました。

理事会だより

２０１８年9月１７日（月）、理事１７人、監事３人が出席し、第三回理事会が開催されました。

●7月末の状況

・組合員数	２，４８３名
・出資金	６０，５９３千円
・供給高	３０，３８８千円
・原　価	２２，２７２千円
・一般管理費	１，８７０千円
・剰　余	６，２４６千円

●役員変更・定款変更

・総代会、役員改選に伴う役員変更届を法務局に提出。

・定款変更は、８/３１付で受理

●サ高住更新申請

・新しい事業番号付与

●デイサービスまったり　物件購入の件

・共生型サービスの事業実施に伴う手続きの必要の件で、都市計画法に基づいて開発許可申請をするに伴い、事業主が土地・建物の所有者だということが条件であることから、売買契約を締結します。

●組合員拡大推進月間の件

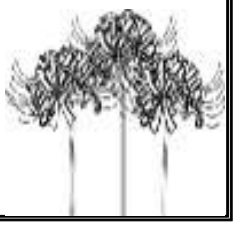
・期間　２０１８年１０月１日～１２月３１日

・拡大目標　今年度２，６００名を目指します。

・秋季イベント等を通して組合加入を呼び掛けます。

・１９９５年～２０００年度加入者の安否確認を通知を発送して調査開始します。これは生協実施調査で受けた指導に基づくもので、優先課題として取り組みます。

●１０月１日より、愛知県の最低賃金が８９８円になります。これは事業所運営会議の課題として改めて協議します。



事業所運営会議報告

第三回理事会と同日の9月１７日（月）午後、第一回事業所運営会議が開催されました。

従来の賃金等検討委員会を基本に、県内５カ所の事業所運営における諸課題を検討する場として設置することとなりました。

●あまこだえのきの家入居者の諸費用に関する取扱いについて、検討・協議を行いました。

・敷金については他事業者の状況も調査し、継続して検討します。現在入居中の方については、従来通りの対応とします。

・一定のサービス以上の介護が必要なケースについて協議しました。

課題① 利用者の重度化により、介護の頻度や複数職員による対応をせざるを得なくなっているケース。

課題② 入浴などが今の環境では困難になっているケース。

課題③ 医療的ケアが必要になっているケース。

他、困難課題のケースが協議されました。

・今後の対応としてまずはケア頻度の高い利用者についてひと月のケア時間数を調査し、検討していきます。

●時間給者の基本給について

愛知県の最低賃金が８９８円に変更となり、時間給者の最低時給を９００円～としました。それに伴い登録ヘルパーの時給の見直しを検討しました。

●変形労働時間制の具体的実施について

月単位の労働時間数に応じた変形労働時間制を具体的に実施するため、特にサービス提供責任者の残業時間数改善に向けて、当面、月の勤務実績報告を提出していき、検討に入ります。

●職員勤続年数表彰の取扱について

毎年の総代会ごとに一定の基準を設けて実施していきます。

あるおじいの沖縄戦①

ここにご紹介するのは、沖縄県在住の城間恒人（シロマツネヒト）さん（77）による実体験の手記です。城間さんは、辺野古基地移設反対を訴えて、今現在も抗議の座り込みに参加しています。そして沖縄ではこの９月３０日、亡くなられた翁長前知事の後任として、玉城デニー氏が歴史的な勝利をはたし、沖縄の圧倒的な民意を国に示したところでした。しかし政府はさらなる工事差し止め執行停止の手段に出ようとしています。「たより」では城間さんの体験手記を連載形式で提供していくことで、沖縄の方々の気持ちに少しでも寄り添うきっかけとしていただけたらと考えています。 **※文中、悲惨な情景描写があります**

私が初めて見た死体は伯父と伯母である。１９４５年5月１５日、小学校の校長だった伯父は学校の書類を取りに、伯母と二人で防空壕を出て家に向かった。すると狙ったように糸数バンダの方からロケット弾の直撃を受け、家ごと吹っ飛ばされた。気を失った私の記憶の中にあるのは、白目を剥いて金歯をむき出しにした伯母の顔だけ。後で母に聞かされたのは、伯父の死体には頭部がなかったということだ。

どこでのことだったか。私と同じくらいの女の子とよちよち歩きの妹が私達を見てついてきた。２人とも素っ裸だ。歩をゆるめ二人が来るのを待つが、幼い妹にはついてこれない。

私達に追いつこうと姉が手を放すたび、妹はその場に座り込みじっと見つめていた。姉は引っ返し妹の手をとり、再び歩き始める。そんなことを何度も繰り返した。砲弾の飛び交う中を人々は逃げまどう。誰もその姉妹を助けようとしない。そのうち姉妹はついてくるのをあきらめ、道端に座り込んでしまった。

あの時のあの姉妹は一言もことばを発せず、泣いてすらいなかった。泣いていたのは私の母だ。何度も振り返りながら「かあちゃんから離れるんじゃないよ。死ぬ時は一緒だからな。」と言った。このためかもしれない。私は終戦後、幼稚園に行くようになってもひとりで遊ぶことができなかった。

１９４５年6月１８日、ひめゆりの塔のある伊原の村でかくれていた民家に艦砲が飛んできて沢山の人が死傷した。私は石柱の下敷きになるも、大人の死体が支えになって助かった。

壕の中で喉の渇きを堪え切れなくなった私の妹は、鉄カブトの米のとぎ汁を見てかすれ声で訴えた。

日本兵は母の手から妹を奪い取り、首を絞めた。米兵に子の泣き声が聞こえないように。妹はことばを発することもなく、そのまま息絶えた。

（つづく）

かんたん料理

● 関西風 とうふで豚肉すい ●

材料（およそ２人分）
豚小間（食べやすい大きさ）150㌘、とうふ（食べやすい大きさ）１丁、しめじ1パッ（手で小房にわける）、玉ねぎ1/4薄切り、卵２個、めんつゆをうどんのだし割合にうすめたもの400cc、ほんだし小さじ1、酒大さじ1、ネギ少々

１　鍋に水と合わせためんつゆ、ほんだし、酒を入れます。

２　とうふ、玉ねぎ、しめじを入れて火にかけます。

３　沸騰したら豚肉を入れ弱めの中火で５分煮込みます。

４　卵を割りいれて、ふたをして１～２分。器に盛ってねぎを飾って完成です。

（クックパッド参照）

高齢者生協組合員拡大推進月間

～２０１８年１０月１日～１２月３１日～

「地域作りは、組合員・地域の人々と共に！！」

冒頭ページでも呼びかけしてきましたが、組合員拡大推進月間が始まっています。

　ますます厳しい社会情勢と介護保険制度の現状について広く知っていただき、地域の拠点に集いの場を設けて、高齢協の仲間として地域の皆さんとの結び付きを強める機会にしていきましょう！

- 地域の方や組合員の方に向け、学習会や集いの場を増やし、介護保険やその他の制度、社会情勢や認知症や高齢者生協のことなど学び合いましょう。
- 働く職員に向けて、加入、増資を呼び掛けましょう。また、お知り合いやご近所さんなど、ご紹介ください。
- 地域組合員の方の集いの場を作っていきましょう。パソコン教室やサークル活動を発展させ、健康体操やカフェの集いなども定例化するなど、地域組合員の自主的な運営の場を作りましょう。

「日本高齢者
生活協同組合連合会」
２０１８年度
組織強化月間ポスター

地域に向けて高齢者生協を広げよう！

■組合加入のお申込み、お問い合わせはこちらまでどうぞ

愛知県高齢者生活協同組合本部事務局	０５２-３３１-４８５３
守山地域福祉事業所（あまこだ）	０５２-７７１-１１３３
春日井地域福祉事業所（ぬくもり）	０５６８-３５-６０８１
岡崎地域福祉事業所（かけはし）	０５６４-８７-４７４８
保見ヶ丘地域福祉事業所（ケアセンターほみ）	０５６５-４３-３００６
一宮地域福祉事業所（まったり）	０５８６-６７-５０７７

*介護、生活の困りごとは、お気軽にご相談ください！